

# 19集会の革命的意義とは何か！

日本共産主義学生同盟 東京教育大学支部委員会

## ③ 4・19集会の主な出された結果

4・19教育大斗争戦線集会は決して偶発的に提起されたものではない。それは教育大斗争が、運動の内実として昨年度闘争の阻止斗争から、筑波研究学園都市解体斗争へと上昇してきた過程の必然的到達点として存在している。すなわち、教育大、筑波への空間的移動に対する反対の斗争としてではなく、既存の研究・教育体制の合理的合理化の環として存在している筑波研究学園都市に対して、既存の研究・教育秩序を全面的に拒否する斗争を通して新たな研究・教育秩序を作り出す斗争として取り組まれたきた対抗運動の蓄積の上にこそ4・19集会の意義がある。また、われわれがこれまでの斗争の過程で追求してきた個別教育大の枠を突破した全人民的波及を勝ち取ることを、この集会の中で貫徹して、かなければならない。すなわち、研究学園都市が特殊な状況にのみ向うられ、全人民からの攻勢として斗争のついでに、明確に全人民的、かつ、この攻勢によってあるが故に、研究学園都市、教育大が、市民をも巻き込んで斗争として組織されていかなければならぬという、われわれの斗争の方向性の中に、4・19集会は位置付けられるべきである。

## ④ 4・19集会の意義は何か！

4・19集会は③で述べたごとく、我々の斗争の延長線上に明確に位置付けられるべきでない。4・19集会の意義は

- (1) 教育大斗争の枠を突破し、研究学園都市解体の方向性を明確に提起すること
- (2) その中で既存の研究・教育秩序を拒否する過程を通して、新たな研究・教育秩序を構築する斗争者・学生との斗争戦線を創出すること。
- (3) 筑波研究学園都市解体へと押し進む斗争の斗争戦線を形成する中から、

ブルジョワ・ヘゲモニー体系に対決し得るプロレタリア・ヘゲモニー体系を、研究学園都市、教育大斗争者・マスコミ斗争者等の横断的組織を確立する中で創り出して行く突破口とすること。

(4) 16皇都学園共闘以来創りあげてきた皇都学園斗争の組織を教育大から造り出す突破口として確立する中で、70年安保斗争へ向けてこの学生戦線の統一を形成する途とすること。

(5) われわれが10・22明治百周年反対皇都デモ、インデ創り出した、生々現場から国家権力との対決へと上昇する過程での真の斗争戦線を勝ちとること。

以上の五項こそが、4・19集会の革命的意義であり、日本学生運動がその困難な斗争の中で果しえなかつた問題を担いうる斗争としてあり、われわれの筑波移動阻止斗争の巨大な転換点として存在する理由があるのである。

われわれは、明確に4・19教育大斗争報告集会を突破口に、筑波研究学園都市解体に向けて全人民的決起をかちとつていかなければならないともし、この集会に結束した研究・教育斗争者の集団が、この組織を創り出し、日本学生運動を日本階級斗争の知的ヘゲモン部隊として確立することを志向していかねばならない。それこそが「大学解体」という方向性を全人民的階級斗争の一翼として形成しうるであろう。

4・19集会は筑波移動阻止斗争・研究学園都市解体の方向性を真に提起できるところであろう。そして、筑波を突破口とした斗争研究・教育斗争者との連綿したボジウムを、我々が展開してきた対抗運動の真的上昇過程の中でかちとり、大学を「レタリヤ、ヘゲモニー装置」として確立せねばならない。

われわれがハケ月にわたる大学占拠斗争の中で、また2・28以降の困難な斗争の中でめざしてきた方向性の一大転換を、4・19集会がかちとらねばならない。これを「さりと確認し、4・19教育大斗争報告集会を左到的に成功させるよう、すべての学友は4・19報告集会に結集せよ！」